みなと元町 TOWN NEWS タウンニュース No. 297

発　行:みなと元町タウン協議会　住　所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内　発行人:奈良山喬一　編集人:岩田照彦　電話・FAX:078−391−0831

個性的な道路をつむいでやすらぎのパークにつなぐ

歩行者天国実証実験対象路にもなった元町パークロード（元町ストリート白書⑭）

中央幹線沿いの阪神元町駅西口から南の海岸通まで通じる南北の通りが「元町パークロード」だ。昭和63年、元栄海1・2・3丁目町会が決めた愛称である。元町パークロードにきまった理由や経緯についての資料はないが、この道をまっすぐ南へくだると、新しい観光地の目玉となるメリケンパークに通ずることから名づけられたものだろう。メリケンロードにつぐ、第2のメリケンパークルート、そんな位置づけもあったのではないか。

協議会では、JR元町・阪神元町駅からまちへつながる重要な南北道路と位置づけ、「JR元町駅改装計画・元町パークロードアクセス委員会」を立ち上げ、平成3年、元町高架通商店街振興組合理事長の水杉衛が委員長に就任している。

アクセス委員会の活動内容は不明だが、歩いてみると、形になった活動の成果を読みとることができる。車両は北から南への一方通行で、車のスピードを落とすため、東西道路と交差する部分を狭くしている。歩行者優先道路とするため車道より歩道幅を広くし、街灯と街路樹を整備した。街灯の柱に「元町パークロード」と、緑色の名板を取りつけ、名称を明らかにしている。街灯設置後、協議会が取りつけたものだろう。

北の中央幹線から南の海岸通まで、元町パークロードを歩いてみよう。東側の並びから見ていくと、地下に阪神電車元町駅がある日本競馬会の勝馬馬券売場、馬券購入者は中央幹線に面した入り口から入場するが、通りに面した出口から元町パークロードの流れへ入っていく人の姿もある。隣りあって、立ち食い専門のそば店、元町北通をこえた角には、閉店した宝石店、電気店が商店街への入り口をかざる。ランプひとつで存在感をみせるバー、ナチュラルハウスへ降りる階段があって元町商店街。そのにぎわいを横目に進むと、洋装店に始まりスポーツ衣料品店、婦人服店、岩塩専門店、洋食店、ホテル、靴店、チーズ店、上海料理店で南京町の西の玄関口に到着だ。

南京西路を左にみて一歩踏みだすと、中華料理店、食堂、薬局、食堂、マンション、古書店、カフェ、パン屋が並ぶ。栄町通をこえると駐車場に始まり衣料品店、屋外にもテーブルを用意したコンビニ、乙仲通をこえると洋品店、駐車場、洋品店、家具店で終わる。

西面にはタバコ店、中華料理、ラーメン店、コンビニとつづき元町北通をわたると居酒屋、喫茶店、婦人服店、紳士服店が軒を連ねる。元町商店街の南は婦人洋装店、空き店舗、居酒屋、マンション、神戸牛レストラン。こちらは走水通の東端を過ぎコンビニ、薬局、神戸国際調理専門学校で栄町通へ。栄町通の南側は損保ジャパン日本興亜ビルにはじまりお好み焼き、理容店、雑貨店、食品店、雑貨店が並び、乙仲通をこえると神戸中華総商ビルで終わる。すべて1階の店舗だが、2〜3階に入居する店もある。物販のほか居酒屋やバーなど夜に活躍する店もある。飲食店の目立つ元町北通、物販の元町商店街、食の南京町、観光客が行き交う栄町通、雑貨と飲食でにぎわう乙仲通など、ふところの深い通りだ。

元町パークロードを下って海岸通にでる。雑貨店の入るビルの前に第2国道を渡るため屋根つきの「メリケンパーク前歩道橋」がある。ただし、そこから第2国道の向こうに見えるのは、広大な駐車場とホテルオークラ神戸の建物で、メリケンパークの気配はない。

歩道橋を上がってみる。もちろんパークの影すら想像させるものはない。が、東西両方に階段がある。東への階段を下りて歩道をたどると、メリケン波止場の入り口へ。西の階段を下りて国道事務所を左に進むと中突堤へ向かう道にたどりつく。左に折れ中突堤へ向かう道をすすむと、やがて左手にひろがるメリケンパーク、というシナリオだ。どちらをたどっても、メリケンパークへたどりつくことは可能だが、案内板も見当たらず、この道を利用しようとするひとを案内するには、かなり無理があるようだ。

元町パークロードのにぎわいぶりから、来街者により楽しんでもらおうと、歩行者天国実証実験の提案をうけ、地元や関係者が集まり検討したことがある。北から南向き一方通行の道路で可能、と実施を決めたが、その後、一方通行の道路を逆走してくる車両への対応も地元の責任で、という条件がつき見送りになったが、元町パークロードのにぎわいを証明する話として紹介しておこう。

①阪神電車西出口からみたパークロード

③栄町通から南をみたパークロード

②元町商店街を越えたあたり

④パークロードを南下した国道2号線の歩道橋

【元町・夢街道】⑳

洋服の話⑫

昭和四十二年元町の洋服店

岩田照彦

昭和四十二年十月八日・九日、神戸元町紳士服連盟と元町洋装会は合同で街灯ファッションショウや装飾自動車による市中パレードで宣伝キャンペーンを展開している。商店街には、紳士服店だけの連盟があったのだ。それから十一年後になるが、元町商店街連合会の事務局に保管名簿は昭和四十二年十一月版。

そこに名前のある店名（業種）を紹介しておこう。洋服だけでなく、洋品雑貨関連商品の店も含めている。

一番街
エフワン㈱（洋服）　ひつぢ屋（注文紳士服）　ウネ服飾店（紳士洋品）　古川洋服店（洋服仕立）　元町バザー（ネクタイ）　あだちや（洋品雑貨）　サン・サカエ（船来紳士洋品）　神戸屋洋品店（紳士洋品）　ハンター商店（紳士服販売）　アポロ（紳士洋品）　つばめや（ネクタイ）　十一店舗

三丁目　千紗屋（紳士洋品雑貨）　コトブキ洋品店（洋品雑貨小売）　帽子洋品トラヤ（メンズショップ）　奈良山洋服店（紳士服）　ストック商会（紳士服地・既製服・紳士服仕立販売）　フナキヤ（紳士洋品小売）　アダム（紳士服飾店）　マルサク商店（洋品雑貨小売り）　菱萬商店（紳士服）　タミー（洋品店）　イナバ洋服店（紳士服商）　生発洋服店（洋服商）　ヤタナカオ（洋品雑貨）　十三店舗

四丁目　キムラヤ商店（洋品雑貨）　柴田洋服店（紳士服注文専門店）　川村洋服店（洋服小売商）　柴田音吉商店（紳士服加工販売）　フジ井洋品店（洋品店）　千秋堂（紳士洋品）　三恵洋服店（洋服商）　関口洋服店（洋服販売）　八店舗

五丁目　かわの屋（洋品雑貨）　吉田屋（洋服）　片山洋　服店（羅紗及注文服）　コマドリ（洋品雑貨）　ウエストンコウベ（洋品店）　十字屋洋服店（紳士服）　宮北洋服店（紳士学生服）　タマル洋服店（洋服）　八店舗

六丁目　カネヨシ（紳士婦人洋品・レインコート）　マルヨシ洋服店（紳士服）　キリンヤ洋品店（洋品雑貨）　茶本商店（紳士洋服）　松本洋服店（紳士服）　京屋（呉服・洋服）　玉屋（洋品雑貨）　七店舗

リストアップされた全三百二十二店舗のうち十二％にあたる三十九店舗が紳士服を中心に商品展開していた。さらに当時は、六丁目の三越も健在だった。

神戸元町商店街 楽市楽座情報 5月

◇元町5丁目商店街振興組合　TEL341−6819
第29回元町児童絵画コンクール展 元町5丁目商店街内
4月29日（土）〜5月7日（日）　11時〜18時

◇元町三丁目商店街振興組合　TEL322−2797
GW記念撮影会in　MOTOMACHI
3丁目カルディー付近
5月5日（金）12時〜17時

◇元町1番街商店街振興組合　TEL331−7850
水曜市　　5月17日（水）10時〜19時

◇神戸元町商店街連合会　TEL391−0831
元町の芸術家たち展XV
まちづくり会館地下ギャラリー
5月18日（木）5月23日（火）10時〜18時
（初日12時〜、最終日17時まで）

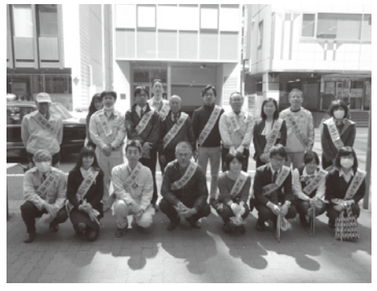
◇凪月堂ホール（有料）　TEL321−5555
もとまち寄席「恵雅亭」
5月10日（水）
桂　三　幸　桂　雀　喜　　月亭 文都
笑福亭 松枝　桂 花團治　　桂　雀　々
前売券4月11日より凪月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー（無料）　TEL361−4523
4月27日（木）〜5月2日（火）
倉敷美観地区を描く（パステル）
5月4日（木）〜5月9日（火）
第4回　甲友会展示会（油彩・写真）
5月11日（木）〜5月16日（火）
第27回　KP展（パステル画）
5月18日（木）〜5月23日（火）
元町の芸術家たち展（油彩・水彩・書道・その他）
5月25日（木）〜5月30日（火）
第18回　新樹会水彩画展（水彩）

◇元町映画館（有料）　TEL366−2636
5月6日（土）〜5月12日（金）
『プリージング・アース 新宮晋の夢』
5月6日（土）〜5月19日（金）
『ブラインド・マッサージ』・『壊れた心』
5月13日（土）〜5月26日（金）
『14の夜』
『ホームレス ニューヨークと寝た男』
5月20日（土）〜6月2日（金）
『第3の愛』・『百日告別』・『灼熱』
5月27日（土）〜6月9日（金）
『人生タクシー』・『はらはらなのか。』

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は4月14日（金）10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、（元栄海3丁目協和会）奈良山喬一、（神戸市住宅都市局）坂田竜一・田中淳也、（広島銀行）上村直子、（トマト銀行）ト部知子、（兵庫県信用組合）永田裕章・中西景子、（三鈴マシナリー㈱）野田常美、（神明倉庫）藤尾憲弘・十時実希、（㈱イーエスプランニング）藤岡翔義、（神明）三好愛、（大一産業）松井一実・安田剛、（まちづくり会館）小椋辰海、（新光明飾）、中川　俊・西村友博・大森貴美子、（佐田野不動産㈱）佐田野宏之以上19名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

KIITO（デザインクリエイティブセンター神戸）で開催中の、神戸港と神戸文化の企画展「神戸・みなと・時空」展の「Toy&doll collection」コーナーに、世界の人形が展示されている。その一角に、神戸人形の最新作が整列する。全身黒ずくめのなつかしい雄姿だ。▼子供のおもちゃにしては異形な色合いの神戸人形は、元町商店街のキヨシマ玩具店が販売していたこともあって、外国人がよく買い求めていったという。▼いま神戸人形づくりに挑戦しているのはウズモリ屋。人形作りに専念する吉田太郎さんご夫妻だ。外国人の目にふれる舞台へ進出の日が待ち遠しい。連絡先は☎〇七八ー八四六ー二九六

海という名の本屋が消えた（42）

平野義昌

喫茶店文化(3)

詩人・季村敏夫が兵庫県の文学資料を収集・整理している。人名、作品、同人誌はもちろん、書店、古書店、グループ、結社など、詩誌関連雑誌の事典作成を目指している。註1

季村の資料を中心にして作家・文化人らの記録から大正・昭和戦前期の元町周辺の喫茶店などサロンを見てみる。

「イビシ」

作家・及川英雄の記憶では「井菱」。何丁目か不明。演劇青年の溜り場だった。

「ウィンナ」

元町通5丁目、32(昭和7)年開店、アメリカ製の電気蓄音機を備えていた。「関西名曲喫茶の草分け」。註2

「エスペロ」

元町通3丁目。宣伝文〈エスペロをまだ訪れて見ない方が神戸にありませうか？〉。『こうべ元町100年』(元町地域ＰＲ委員会、1971年)の座談会で竹中郁が「エスペロイド」と発言しているが、同じ店と思われる。大正末期から同人誌活動をしていた詩人・林喜芳の文章に残っている。

《……小さな喫茶店だが入口に「イングリッシュ・スポークン」と英字で印した木札が下がっている。(中略)卓子が五ツ、二十人もはいれば満杯。中央の卓子で主人らしい大柄な男と外人のマドロスらしいのが愉快そうに話している。美しい女給仕人が珈琲を運んでくる。まったく場違いな雰囲気のなかで私は身を固くし小さくなっていた。(後略)》註3

主人は元外国航路船長で、外国船員を歓迎した。

「オアシス茶房」

元町通4丁目。及川の記憶から。

《四丁目の「オアシス」は探偵作家の巣で、西田政治、山本禾太郎、酒井嘉七、大阪善次など十数人がよく集まっていた。》

また、関東大震災後、外国映画会社が東京から移って来ており、著名な映画評論家も多いのが特色だった。註4

「カフェー・ガス」写真1

三宮神社境内の勧工場(神戸商品陳列場)にあったレストラン、神戸瓦斯株式会社が経営。神戸で初めて「女給」を採用した。詩人、画家、アナキストが集まり、展覧会も開催した。林喜芳の文章から。

《ガス常連の言葉を繋ぎ合わせると、そこのおやじの秋元さんと言うのが相当変わった男でもと「上野精養軒」のチーフコックだったとか。無類の磊落人であるのと珈琲が五銭ということもあって、高等遊民めいた男が始終屯していた。》註3

若者やインテリ、前衛芸術家が集まる文化サロンだった。32(昭和7)年全焼し、その後を「カフェーお多福」が継承した。

三宮神社境内は今よりもずっと広く、映画館・劇場が複数あり、露店も出ていた。コーヒー店が5, 6軒あった。写真2

《……いずれも境内の掘立小屋で、丸い木製の椅子が十脚か十五脚あり、ガラスの陳列ケースをのせた机をぐるりと取り囲んだ客席というタイプがほとんどであり、吹けば飛ぶような店であった。》註5

どの店も繁盛して、なかでも「中西コーヒー店」と「ビクトリア」は24時間営業だった。

「パウリスタ」

三宮神社西側。1911(明治44)年、東京銀座で創業し、全国に19店舗を展開した。創業者・水野龍はブラジル移民事業に貢献した人物で、ブラジル政府からコーヒー宣伝を委託され、豆を無償で供与された。そのため安い価格(5銭ドーナツ付き)で提供できた。神戸店は13(大正2)年、トアロード沿いの小さな木造洋館で開業した。その後、火事で焼失し、20(大正9)年に地元の酒屋・北地酒店が受け継いで再建した。

《……地下一階地上三階の、神戸では珍しい近代的なビルディングであった。遠くから見物人が来るほど評判であった。カウンターはタイル張り、ボイラーも備えられ、大理石をふんだんに使った、素晴らしい建物であった。》註5

ここで同人誌『木曜嶋』(関西学院文学部木曜倶楽部)が美術展や朗読会を開催した。生田神社近くで育った作家・足立巻一(1913～85)の自伝的作品では、「三ノ宮の境内の五銭コーヒー」として登場する。註6

現在「パウリスタ」はビルの名に残っている。

銀座の店も菊池寛や芥川龍之介ら作家・芸術家の溜り場だった。1923(大正12)年7月、アナキスト・大杉栄がパリから帰国後、仲間たちが歓迎会を開いている。

評論・翻訳で活躍した新居格(にい・いたる、1888～1951年)の句がある。

《パウリスタ　五銭のコーヒー　今日ものむ》註7

「ビーハイブ(ミツバチの巣箱)」

淀川の記録では、元町通1丁目(丸善の向かい)にあり、映画ファンが集まった。註8

淀川はここで倉庫会社の社長(本稿第40回に登場)にごちそうになっていた。この社長はじめ、若者たちの文化・芸術に理解のあるパトロン的な大人がいた。

狩野光将(1931年元町通1丁目生まれ、医師)は「ビーハイブ」の卓上に棒状のセロリが備えられていたことを記憶している。また、鯉川筋にあったパン屋「ニシムラパン」の喫茶室を紹介している。註9

「藤屋」

元町通3丁目。本稿第2回で紹介した堀辰雄と竹中郁が待ち合わせをした場所。

「ホワイトローズ」

元町6丁目、三越の東隣。九鬼一爾、唯半児、水車大八ら文学誌『Omegaの妄想』メンバーが集まった。

「本庄喫茶店」

及川の記憶では元町通1丁目入口山側の本庄写真店喫茶室。季村は元町通3丁目「本庄」というソーダファウンテンのパンフレットを所有している。元町商店街の資料では3丁目に「本庄(喫茶・カメラ)」とある。及川の記憶違いだろう。

「モトブラ」

元町通5丁目。宣伝文句〈快的ナ純粋茶肆〉。小林武雄、亜騎保ら「神戸詩人クラブ」メンバーが集まった。

「ランクル・ブルウ(青い錨)」

元町通5丁目の路地。本稿第19回で紹介した「赤マントの今井朝路」が開いたバー。

少し範囲を広げれば、湊川神社前に「カフェ・ブラジル」「カフェ・クロネコ」、加納町に「アカデミー・バー」「カフェクローバー」などの名前が見られる。

「三星堂」には〈喫茶ガール(ウエイトレス)〉がいた。ここでは「女給」とは呼ばなかったようだ。《「阪神間の御影、芦屋のブルジョアのマダム、むすめが、殆ど、喫茶店はこゝより知らないと云ふ風に運んで来る」と書かれており、高級感のある店だったことが分かる。》註10

吉田健一はフランスのカフェを「何もしないでぶらぶらしてゐる為の場所」と書いている。コーヒーがあり、酒もあり、食事ができ、筆記用具を貸してもらえ、新聞がいくつも読める、そういう場所であることがカフェの役目だ、と。註11

大正・昭和初期の日本では、牛乳とパンで空腹を満たすための場所だったミルクホールが、いろいろな飲み物・食べ物を出すようになる。その喫茶店がモガ・モボたちの社交場になり、同好の士が集まるサロンになった。

静かな喫茶店で文学・芸術の感動の余韻に浸る。至福の時間と言えるだろう。本のページをめくりながらコーヒーを味わい、友人たちと語り合い、情報を交換することも楽しい。「一服する」とは、タバコやお茶、葉を飲んで一休みすること。仕事や用事の合間にリラックスする、ストレスを緩和するという効用である。仕事帰りにちょっと一杯、というのもそういうことなのだろう。

註1　季村敏夫『山上の蜘蛛』みずのわ出版2009年
註2　安井裕二郎「昔の元町通　第36話」神戸元町商店街ウェブサイト
註3　林喜芳『神戸文芸雑兵物語』冬鵲房1986年
註4　及川英雄『風流紳士読本』のじぎく文庫1964年
註5　小林正信『あれこれと三宮』三宮ブックス　1986年
註6　足立巻一『夕暮れに蓓を植えて』朝日文芸文庫1995年
註7　伊藤博「日本文学に表われたコーヒー」『日本の名随筆別巻3珈琲』作品社1991年
註8　『淀川長治自伝』中公文庫1988年
註9　狩野光将『神戸鯉川筋物語』東洋書院2008年
註10　林哲夫『喫茶店の時代』(原資料『喫茶街』1937.1月号)編集工房ノア2002年
註11　吉田健一「カフェ」(『日本の名随筆別巻3珈琲』作品社所収)

訂正とお詫び

前号に印刷の誤りがありました。表題「探偵小説(4)」は「喫茶店文化(2)」です。また、左段13行目最初の文字「馮」を削除いたします。訂正して、お詫び申し上げます。

岡本唐貴画「或る日のカフェ・ガス」
(林喜芳『神戸文芸雑兵物語』の表紙)

小林正信「三宮附近略図」
(『あれこれと三宮』より)

出来事ファイル　(№17－5)

■乙仲通・ホテル建設決まる

西本貿易の倉庫からレストランに変身、若い人たちを集めていたが、その跡に10階建て111の客室を備えたホテルが新築されることになった。運営は滋賀県大津市に本社を置く㈱レイアホテルズ。設計は久武正明建築設計事務所が行い、建築は㈱共進ビルドが担当する。いまの予定では平成29年9月に着工、30年9月完成の予定。

完成予想図

■生田祭神受け神事おごそかに

4月15日(土)、生田祭前日におこなわれる巡行が、今年も静粛に行われた。今年の生田祭式典の担当は兵庫岡方地区。地元奉仕団の手によって午後1時に生田神社を出発した巡行は午後2時過ぎ、マスヤ前に到着、準備された祭壇の前で、行き交うひとたちが見守るなか猿田彦も登場、神事を終え一行は、兵庫北部地区の会場へ。

■海の本屋再現イベント

「海の本屋」復活スペッシャルイベントが3月18日(土)19日(日)の両日、まちづくり会館で開かれた。18日は作家の島京子さんが郷土出身作家を紹介、19日は海文堂元店長の小林良宣さんと元店員の平野義昌さんのトークショーで、販売員が取り組んできた市内書店地図などの軌跡を紹介。1階では、書店も再現、多くの人でにぎわった。

会場を埋め尽くしたトークショウ

■協議会 みなと元町健康サロン主催

ハーバーランド安心すこやかセンターとグリーンロードの会などにより、毎月第2火曜日10時～12時まで、まちづくり会館3階の多目的室で行ってきた「みなと元町健康サロンすずらん」は、4月からみなと元町タウン協議会が主催者として引き継ぐことになった。参加費300円。詳しくはあんしんすこやかセンター(☎651－7168)まで

会場風景(世話人の安原さん撮影)

■6丁目商店街 片山泰造氏から佐藤隆志氏へ

元町6丁目商店街振興組合は、長年、マルヤ靴店代表の片山泰造氏がつとめてきたが、4月から靴のコウベマリー店主の佐藤隆志氏が理事長に就任した。片山氏は振興組合理事長を退任したものの、民生委員や中央区の消防団役員職、弊協議会副会長、もとまちハーバー懇談会代表などは従来通り。佐藤理事長のもと、さらなる商店街の活性化が期待される。

佐藤・元町6丁目商店街振興組合理事長

■いちごテーマにスイーツフェア開催

3月4日(土)～26日まで、神戸市経済観光局ファッション産業課の主催で、神戸スイーツフェアが開催された。初日の4日は、いちご色の車で東遊園地、北野工房のまち、元町6丁目を回り、販売と試食会を開き、街全体がスイーツの色と香りに包まれた。元町6丁目での試食と販売は15時からだったが、早くから到着を待ち兼ねる人達で行列も。

■1000人の笑顔に

神戸住宅都市局は、神戸都市ビジョンのCM出演者1000人を募集している。元町商店街も出演者の選出依頼を受け、第1陣として元町5丁目商店街で文具事務用品店を営む福羽　圭さんが登場、プロカメラマンによる商店街での撮影を終えた。福羽さんが選んだ都市ビジョンへ言葉は商いにも通ずる「CHHALLENGE！」だった。

3丁目商店街での撮影風景

□神戸山手大学でホタル観賞会

神戸山手大学(中央区諏訪山町3－1)にある神戸山手大学では、5月20日(土)から6月2日(金)まで、構内を流れる宇治川の河川敷に出現するゲンジボタル鑑賞のため、構内を開放する。観察できるのは、暗くなる7時45分頃からで、構内開放時間は、期間中、いずれも7時30分から8時45分まで。問合せ先：☎078－341－1615

□まちなか拠点整備イメージ募集

神戸市建設局道路部が、ＪＲ元町駅東口南側広場を対象に「まちなか拠点」整備イメージを募集している。整備案募集の骨子は、対象地域の有効活用で、階段式ベンチを整備してまちなか拠点を創出、既存の回遊を促す施設の活用と連携を目指すもので、歩いて楽しい都市魅力の向上を目指す。7月3日(月)まで。問合せ先☎078－322－5399

整備対象地域の元町駅東口南側広場

□印は、これからの出来事です。